

検査項目についての説明を記載しています。参考基準値とは健康な動物の95%が含まれる下限値と上限値の範囲であり、この値から外れても必ずしも異常を示すものではありません。詳しい結果の解釈については獣医師の先生の説明をお聞きください。
*説明は一般的な内容となっています。参考基準値は測定方法などにより検査センターによって異なる場合があります。

検査項目	検査結果	単位	判定	各検査項目ごとの基準値を示しています。 (参考基準値(犬))
グルコース (Glu)	140	mg/dL	高	60~123
アミラーゼ (Amy)	570	U/L		401~1395
尿素窒素 (BUN)	7	mg/dL	低	9~30

各検査項目の詳細は、下の表をご参照ください。

基準値を外れている場合でも必ず異常とは限りませんので先生の説明を良くお聞きください。

検査結果が「高」は基準値より高値であったこと、「低」は低値であったことを示します。

血液化学検査で一般的な項目と意義

総蛋白 (TP)	血液中の蛋白質の総量を示し、栄養状態、肝・腎機能や免疫機能の指標となります。Alb, Globの数値と併せて評価します。
アルブミン (Alb)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、低下は肝臓、腎臓、腸などの疾患や出血などが疑われます。
グロブリン (Glob)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、慢性炎症、腫瘍、減少は免疫異常などが疑われます。
アルブミン/グロブリン比	アルブミンとグロブリンの比を算出したものです。慢性炎症、腫瘍、慢性肝障害、腎からの喪失などで低下します。
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)	肝臓、骨格筋、心筋に多く含まれている酵素です。主に肝機能の指標として用います。
アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	肝臓に多く含まれている酵素です。肝細胞の障害を評価します。
アルカリフォスファターゼ (ALP)	主に胆道系疾患 (胆汁鬱滞、胆管肝炎など) で上昇する肝酵素です。骨の成長期、ステロイド、腫瘍などの影響により上昇する場合があります。
ガンマグルタミルトランスフェラーゼ (GGT)	主に胆道系疾患 (胆汁鬱滞、胆管肝炎など) で上昇する肝酵素です。
総コレステロール (TCho)	生体の主要脂質成分であるコレステロールの血液中の総量を示します。肝臓や胆道、腎臓の疾患や、糖尿病などの内分泌疾患などで上昇します。肝不全、小腸疾患、甲状腺機能亢進症などで低下します。
トリグリセライド (TG)	高脂血症の指標として用います。甲状腺機能低下症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症、肝不全等で上昇することがあります。
総ビリルビン (TBil)	ビリルビンは赤血球中のヘモグロビンの代謝産物です。溶血、肝障害、排泄経路の閉塞などで上昇し、黄疸の原因となります。
グルコース (Glu)	血糖値を示し、糖尿病や低血糖の診断に用います。食事の影響を受けるため、食後に上昇します。また興奮などのストレスやステロイドの影響により上昇する場合があります。
アミラーゼ (Amy)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。主に膵炎の指標として用いられます。
リパーゼ (Lip)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。主に膵炎の指標として用いられます。
尿素窒素 (BUN)	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能の低下や消化管内出血などで上昇します。また、肝機能の低下により減少することもあります。
クレアチニン (Cre)	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能が低下すると上昇します。低下の原因としては、著しい筋肉の減少などがあります。
BUN/クレアチニン比	BUNとクレアチニンの比を算出したものです。腎疾患、脱水などで上昇し、肝不全などで低下します。
カルシウム (Ca)	骨代謝や筋肉の収縮、血液凝固などに関与します。主に腎臓や上皮小体の疾患などで変動します。また、腫瘍で上昇する場合があります。
リン (P)	主に骨代謝に関与します。腎不全、甲状腺、上皮小体の疾患などで変動します。

その他の検査項目

ナトリウム (Na) / カリウム (K) / クロール (Cl)	Na, K, Clは電解質と呼ばれ、細胞の浸透圧調節や体内の酸-塩基平衡(pH)調節、神経伝達など重要な機能を担っています。腎疾患、内分泌異常、脱水、嘔吐、下痢等様々な病態で変動します。
血球計算	赤血球系、白血球系、血小板の数値により、様々な原因により引き起こされる貧血や炎症の有無等を評価します。
T ₄	甲状腺から分泌されるホルモンで、体内のほとんどの細胞に作用し、基礎代謝上昇、成長促進、体温上昇、心機能亢進など様々な働きをもちます。

定期的に健康診断を受診しましょう!

動物病院で定期的な健康チェックを受けて、病気の早期発見につとめましょう。

次回の検査予定 年 月 上旬・中旬・下旬頃